

教えて!

市立病院

vol.50

市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

テーマ 体に優しい循環器治療を目指して

今月のドクター
診療部長兼
心臓血管外科長
佐藤洋一 医師



これまで、市立病院の心臓血管外科では大きな手術や難しい手術、合併症のある人や高齢の人の手術はできませんでした。現在は遠くまで行って手術を受けなくてはならない本人や家族の負担を減らし、できるだけ市立病院内で治療を完結するために、心臓から足先の血管まで、新しく取り入れた体に優しい循環器治療を目指しています。



▲レーザーカテ
テル
◀レーザー装置

■ステントグラフトを用いた大動脈治療

胸や腹部の大動脈瘤について、大きく切除し人工血管に置き換える手術は確実に血管の瘤がなくなる利点がありますが、体への負担が大きく合併症も生じやすい上に手術後の回復も遅れるという欠点があります。一方で、ステントグラフト治療は太ももの付け根を小さく切開し、動脈にカテーテルを挿入する手術です。筒状の人工血管にバネがついているステントグラフトを折り畳んで大動脈瘤まで持っていき、内側から開いて瘤の中に血液が入らないようにします。輸血なしで手術ができ、手術後は大きく切開するよりも早く回復できます。

■下肢静脈瘤に対するレーザー血管内焼灼術

足の皮下静脈が血液の逆流によりうっ血し、太くなり曲がってくる病気で、静脈瘤と共によりうっ血の症状(痛み、痒み、夜の足のけいれん、浮腫み)がでてきたら早めに皮下静脈を治療しましょう。レーザーでの治療は、ワイヤーで皮下静脈を引抜く下肢静脈瘤抜去術に比べ、大腿部に傷ができず、局所麻酔のみで手術が可能で、手術後の痛みが少なく回復が早いなどが利点です。

■心拍動下冠動脈バイパス術

心臓の表面には冠動脈という2mm程度の細い動脈が走っていて、狭くなったり詰まったりすると治療が必要です。カテーテル治療には限界があるため、バイパス手術が適する病変に対しては、心臓を動かしたまま血管をバイパス吻合する方法が有効です。2010年10月から2017年3月までの60例の冠動脈バイパスのうち55例を心拍動下で行っています。体外循環を使用しないため、基本的に輸血は不要で肺の負担も軽く術後の回復も早くなります。

■脊髄刺激療法

下肢の動脈が動脈硬化で硬く狭くなったり閉塞したりして血流が不足する閉塞性動脈硬化症に対する治療の1つです。動脈が細くなってちりぢりになるとこの治療法を行います。脊髄の周りに硬膜という膜がありその外側に電極を置いて脊髄から出てくる神経を刺激することで痛みを除いたり下肢の細い動脈を拡張させ血流を改善させたりします。局所麻酔で行い、ペースメーカーのようにお尻の上部皮下に電池を植え込みます。この治療は脊柱管狭窄症などの脊髄疾患にも適応があります。

手術方法の違いによる術後の経過

手術	食事	歩行	退院
腹部大動脈瘤 人工血管置換術	3日後	4日後	10～14日後
ステントグラフト を用いた大動脈治療	翌朝	翌朝	6～8日後
下肢静脈瘤抜去術	翌朝	翌朝	2日後
下肢静脈瘤レーザー 治療	当日	当日	1日後
心臓手術	3日後	4～5日後	10～14日後
末梢動脈バイパス術	翌朝	翌朝	8～10日後



下肢静脈瘤に対するレーザー治療の様子